

YUJ 2011年 春

平成23年4月11日発行（第9号）

ユジュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。

YUJを手にとった方とお寺が良い縁で結ばれますように。

<http://www.kagawa-konzouji.or.jp/gyoji/yuj.html>
yuj@kagawa-konzouji.or.jp



立山(飛騨山脈)

一言 主神

葛城山一言主神と役行者
その対立と意外な関係

神々の籠もる山

立山に 降りおける雪を

常夏に 見れどもあかず

神からなむし

歌人としても有名であった大伴家持が、越中守として、奈良の都を離れ、北陸へ下った天平勝宝三年（七五一）に詠まれた歌です。神が降り立つ山といわ

れる立山の、夏にも雪をいたたく様を目の当たりにし、改めてその神々しい姿に感動した家持の想いが偲べれます。

古来より、わが国では、神々が籠もる場所として、山は神聖視され、崇拜されてきました。もともと氏族を中心に集落を構成してきた古代社会では、先祖の霊は年月を経て神になると考えられていました。そのため、山は死者の霊も帰る場所であり、生

ある人が山に足を踏み入れるという行為は禁忌でありました。しかし、一方で、神々が籠もる山を修行の場と捉え、身心の鍛錬を行う人々も現れてきました。山林修行者と呼ばれるこれ

らの人々の中に、天台宗開祖の最澄、また真言宗開祖の空海も含まれます。

最澄の後、天台宗では、円珍を中心に園城寺を拠点においたグループによって、本山派と呼ばれる山林修行者の集団を形成していきます。

一方、空海によって開かれた真言宗では、聖宝を中心に醍醐寺を拠点においたグループにより、当山派と呼ばれる山林修行者の集団を形成していきます。

後にこれらの山林修行者に開祖と仰がれる宗教者、役行者の唯一の正史の記録は、『続日本紀』文武天皇三年（六九九）五月二十四日条にあるのみです。

後にこれらの山林修行者に開祖と仰がれる宗教者、役行者の唯一の正史の記録は、『続日本紀』文武天皇三年（六九九）五月二十四日条にあるのみです。

役行者の出現

「はじめ小角は葛木山に住み、呪術をよく使うので有名であった。外従五位下の韓国連広足の師匠であった。のちに小角の能力が悪いことに使われ、人々を惑わすものであると讒言されたので、遠流の罪に処せられた」

広足とは、当時唯一の国立病院であった典薬寮において、呪術によって病気の邪気を祓う呪禁師でした。これより三十年余の後、広足は、典薬頭（典薬寮の長官）にまで栄進します。

その師であった小角こと役行者の呪術の力は相当なものだったのでしょう。そんな役行者の呪術の力を「人々を惑わすものである」と訴えた人物とは誰だったのでしょうか。

また、同条は、「世間のうわさでは、小角は鬼神を思うままに使役して、水を汲んだり薪を採らせたりし、若し命じたことに従わないと、呪術で縛って動けないようにした、といわれる」

と続きます。「鬼神を思うままに使役して…」とは、いったい何を意味しているのでしょうか。

役行者と一言主大神

『続日本紀』編纂の後、三十年足らずで編纂された仏教説話集に『日本霊異記』があります。これは弘仁十三年（八二二）、薬師寺の僧景戒によって、奈良時代までの仏教説話をまとめたもので、この中に役行者の最古の説話「孔雀明王の呪法を修めて霊術を身につけ、この世で仙人となつて空を飛んだ話 第二十八」があります。

ここではまず、役行者の出自について、「加茂の役公で、今の高賀茂朝臣はこの系統の出であり、大和国葛城上郡茅原の人である」と紹介されています。

役行者は、生まれつき賢く、博学で、仏法の信仰厚く、もっぱら修行に努め、仙人とともに永遠の世界に遊び、身心を養うことを願っていたため、四十余歳になつても、なお岩屋に住み、

粗末な着物を身にまとい、松の葉を食べて過ごしました。

こうして『孔雀経』の呪法を修め、不思議な験力を示す仙術を身につけた役行者は、鬼神をせきたてて、「大和国の金峯山と葛城山との間に橋を架け渡せ」と命じたそうです。

神々はみな嘆きました。葛城山の一言主神は人にのり移つて、「役行者は陰謀を企て、天皇を滅ぼそうとしている」と訴えたため、天皇は役行者を伊豆嶋に流した、ということでした。

ここで告発者が一言主神であることが分かります。

この一言主神は、『日本書紀』雄略天皇四年（四六〇）に、雄略天皇が葛城山に狩りに出かけた時、長身で顔や姿は天皇に似た現人神として現れ、共に狩りを楽しんだ、と記述があります。

雄略天皇の時代、一言主神は葛城山の地において、天皇と平等の立場であったことが分かります。つまり、葛城山一帯を治めていた豪族が祀っていた氏神、

それが一言主神なのです。

これで、「鬼神を思うままに使役して…」の意味が見えてきました。葛城上郡を中心に活躍した役行者は、その圧倒的な呪術によって周囲の豪族を従えた、つまり鬼神とは役行者を支持する一族の氏神を意味するのではないのでしょうか。

そのことを苦々しく思った豪族、葛城山一帯を治め一言主神を祀っていた一族が、役行者を陥れようと訴えた、ということが真相のようです。

それでは、この豪族とは、いったい誰なのでしょう。

一言主神と賀茂朝臣

少し話を戻しましょう。天武天皇元年（六七二）、壬申の乱といわれる古代日本最大の内乱がありました。壬申の乱とは、天武天皇没後、皇太子の大友皇子に対し、皇弟の大海人皇子が地方豪族を味方にして起こした反乱で、勝利した大海人皇子は天武天皇として即位しました。

天武天皇十三年（六八四）、壬申の乱に協力した豪族を中心に五十二氏が、皇族以外では最上位にあたる朝臣と呼ばれる姓を賜ります。

この中に賀茂朝臣を賜った一族がありました。この一族こそ、一言主神を氏神と祀り、葛城山

を治めていた豪族でした。ところで、『日本霊異記』の役行者の出自について「今の高賀朝臣の系統はこの出である」とありました。しかし、先程の五十二氏の中に、高賀朝臣は含まれていません。再び時代を下り、高賀朝臣を探してみましよう。

高賀朝臣と役行者

高賀朝臣の記述が始めて見られるのは、『続日本紀』の神護景雲二年（七六八）十一月二十六日条です。そこには、「從五位上の賀朝臣諸雄、從五位下の賀朝臣田守、從五位下の賀朝臣萱草に高賀朝臣の姓を賜った」とあり、賀朝臣と高賀朝

臣が全くの同族であることが分かります。

つまり、役行者も賀朝臣の一族だったのです。すると、一言主神が役行者を訴えたという話は、同族同士の争いというところでしうか。そこで、『続日本紀』天平宝字八年（七六四）十一月七日条より諸雄、田守、萱草が高賀朝臣姓を賜ることに

なつた出来事を紹介しましょう。田守とその兄で僧の円興は、高鴨神について、次のように説明しました。「昔、雄略天皇が葛城山で獵をされていたとき、いつも天皇と獲物を争う老夫がおりました。天皇は怒り、その老夫を土佐国に流しましたが、これは私達先祖が祀っていた高鴨神が老夫となったものでした」これを聞いた天皇は、田守を派遣し、高鴨神（高鴨阿治須岐託彦根命）を迎えて、再び大和国葛城上郡に祀らせました。この記述にあるように、高鴨神はいつも天皇と獲物を争っていたようで、天皇と共に狩りを

楽しんだ一言主神とは対照的です。まるで、役行者のようだと

は思いませんか。つまり、「狩を共に楽しんだ」とは、壬申の乱で天皇と共に大友皇子に勝利したという歴史的事実、一方、「獲物を争う」とは、天皇を脅かしたもので、つまり役行者と考えられるのではないのでしょうか。

役行者は伊豆嶋へ、一方、高鴨神は土佐国へ流されており、一致しないように思えますが、実は、伊豆嶋が何処を指すのかは、いまだ分かっておりません。

高鴨神として

ここでひとつの仮説を立ててみましょう。

壬申の乱の功績により、朝臣姓を賜わつた賀朝一族は、その後、呪術の優れた役行者が、葛城山一帯で活躍しますが、そのことをよく思わなかつた一族のものが、「役行者が天皇を滅ぼそうとしている」と密告します。脅威を感じた文武天皇は、すぐ

に役行者を捕らえ、土佐国へ流してしまいました。

時代が下り、賀朝一族の田守らは、罪無く土佐国に流されていた役行者を不憫に思い、天皇に高鴨神として葛城上郡の地に迎えて祀ることを願い、許可されました。これによつて、諸雄、田守、萱草の兄弟は、高賀朝臣の姓を賜ることになりました。現在、高鴨神は、奈良県御所市鴨神の地で、高鴨神社の祭神として祀られ、京都の賀茂大社を始め、全国の賀茂（鴨、加茂）神社の総本社となっています。

また、その後の賀朝一族ですが、諸雄の曾孫に賀茂忠行がおり、忠行は陰陽道を確立し、安倍晴明の師匠としても有名です。これまた、役行者の呪術性との因縁を感じてなりません。仮に役行者がその呪術性により、葛城の山に鎮座する高鴨神となつたのであれば、今も山林修行者と共に、葛城の山に遊んでいることでしょう。まさに神籠もる山だと思いませんか。



三井古流煎茶道の特徴のひとつに、数あるお手前の全てにはお心があり、それぞれに意積があるということです。

お心とは何か。それは、それぞれのお手前を行うにあたって、どのような気持ちで点てるのか、その心構えを表現した言葉のことをいいます。

それでは、まず常手前のお心をご紹介します。 「煎茗楽天理」と書いて、「煎茗楽しむ」と読みます。このように、お心自体は全て漢文で示されているため、現代の私たちに分かりやすくするように意積があるのです。

この意積ですが、お茶を点てることよって、人間の道や人生などを学び生活に活かす、といったところでしょうか。

意積は、基本的にお茶を点てる者が、その言葉を自分なりに消化して表現すればよいといわれています。よって、その人の経験、あるいは季節などでも変化するものであり、人によつて違うものだと思います。

しかし、初心者である私は、お茶を点ている所作の中で、そのお心を感じ入るだけの余裕がないので、お手前の後に意積を問われた時、現代語に言い直すことで精一杯です。いつの日か、本当にそのお心を体で感じ、表現することができるようになるのでしょうか。

さて、今回のレシピは、きな粉を使った和テイストの焼菓子です。ポイントは、一緒に入れるナッツ。ナッツの種類によつて、風味や食感が変わる楽しみがありそうです。お好みのナッツを砕いて試してください。



recipe.06 きなことナッツのパンケーキ

【作り方】 1. ボールにきな粉、薄力粉、砂糖、塩、ベーキングパウダーをふるい入れ、ナッツも加えておく。2. 別のボールにサラダ油と豆乳を入れ、ホイッパーでしっかり混ぜる。3. 2を1に加え、ゴムベラで混ぜ合わせる。4. クッキングシートを敷いたオーブントレーに、3を小餅大に取り分け、形を整える。5. オープン180度で20分焼けば出来上がり(生焼けのようであれば、2~3分追加)。

【材料／8枚】
きな粉…30g、ナッツ…10g、
薄力粉…100g、砂糖…35g、
ベーキングパウダー…小さじ
1/2、サラダ油…40ml、豆乳
…100ml、塩…ひとつまみ

石の大黒さん と 木の大黒さん



浜口育弘 (文)

浜口緑研究所代表。除草剤などで弱っていた「乃木將軍妻返しの松」を独自の研究によって元気な姿に戻す。連絡は、〒763-0065 香川県丸亀市塩屋町 2-16-17

Denny Horimizu (絵)

生まれ育ちは金蔵寺。金倉寺にて月に1度、EmaFaceを展開。似顔絵、ウェルカムボード他、ご要望があれば承っています。

<http://www.moridukuri.cho-chin.com/>

— 金倉寺の本堂脇に住み着いた石の大黒さん。ひとつピカピカ、ふたつピカピカ。いつの間にもやら全身ピカピカ。

— ある日、ゴロハチは、木の大黒さんを拾い、軽トラの座席に乗って貰って、ウロウロ。

— さて、困った。どこか貰ってくれるところないやろか。金倉さんはどうかいな。

— 金倉寺に着いたゴロハチ。木の大黒さんと本堂まで来ると、石の大黒さんがポツリ。

— ぢや、全身金ピカで結構やろ。お前さんは色が黒うつく貧相なう。

— 石の大黒さんの言葉に、辛そうな顔をする木の大黒さん。困ったのはゴロハチです。

— えーい、分かったわ。俺んトコに来な。

— 木の大黒さん、安心したのか、ニコニコ顔に戻ったよう。

— ピカピカ大黒さん、あんたは体が大きく重たいけん、雨の日も風も日も、暑い日も寒い日も、外ばっかしや。ワシは体が小さいから家の中におけるんや。

— アホ。ワシが来る日も来る日も外で頑張ってるんは、お参りする人のためや。せやから、みんな「ありがとう」いうて、ワシはこないにピカピカになっとんや。木のお前さんにはこんなんことでけんやろ。

— ワシは木でも肥松ゆうてな、貴重なんや。せやから大事にされて、床の間に飾られよる。顔にかかった年輪も笑とるみたいになつて、なおありがたいやろ。

— なんや、おんなじ大黒さんが喧嘩して。けつたいな光景やな。

— お前さんこそ、テカテカしつからに。ええ年して恥ずかしいんかいな。

— この光沢がワシが精一杯生きた証や。あんたの金ピカとはわけが違う。この光沢は松ヤニや。松ヤニゆうんは松にとつて宝もん、パワーの源やで。この松ヤニがようけ貯まると、年輪も重ねて重ねてしとるんで。最近の若いモンは、上手に松ヤニを作らんきん、すぐ枯れよる。年輪も大雑把で、ワシのような深みがあらへんがな。

— そんなん、石のワシの知ったことか。

— まあまあええがな。あんま怒りよつたら、石も木も顔にシワが入るで。しかし、石の大黒さんは仏さんの前、木の大黒さんは神さんの横におると、どないなつとんやろ。

— 分からんことは考えんてええ。分からんことがあつたつてええんや。人生もそうや。分からんゆうて横向いとらんと、前向いて生きないかん。

— せやで。エエことばっかり願うとつたらええんや。そのためにワシらがおるんやがな。

— さすがは大黒さんやが。息もピッタリ、エエこと言うのう。

— こうして大黒さまは、今日もみなさんの願い事を聞いて下さっているそうです。

気になる？ 気になる！



その八、端午の節句

五月五日はこどもの日。そこで、端午の節句にまつわるお話を紹介したいと思います。

まず端午について。その起原は中国の厄払いの行事であったようです。端午の「端」は最初の意味で、「午」は旧暦の五月、つまり端午とは、五月の最初の午の日のことで、午と五のゴロが同じことから、五月五日に定着したようです。日本に取り入れられたのは、奈良・平安時代。当時の貴族の間では、季節の節目の身のけがれを祓う大切な行事となりました。

古代中国では、端午の節句の日に、葉草である菖蒲酒を飲み、体のけがれを祓って健康と

厄除けを願いました。この行事が、後の日本の鎌倉や江戸時代に拡がります。特に武士は菖蒲を「尚武（武を尊ぶ）」とかけ、端午の節句を祝うようになり、やがて男児の誕生の祝いへと結びついたと考えられます。

では、鯉のぼりを飾るのは、なぜでしょうか。これは、鯉が竜門の滝を登ると竜となつて天をかけるという中国の故事から、男児の成長と出世を願う象徴となったといわれています。

また、端午の節句には、ちまきや柏餅を食べる習慣があります。ちまきは、中国の詩人屈原を慕う人々が、命日である五月五日に彼が身を投げた川にちまきを投げ入れて供養したこと、柏は、新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、家系が絶えない縁起物として広まったこと、由来しているようです。

一見、繋がりのないような風習も、様々な事象から生まれた歴史の一部分です。これからも受け継がれるといいですね。

小僧さんの自習室



その8・円珍さん⑦

大中七年（八五三）十二月十四日、円載との対面を待ちきれなくなった円珍さんは、思わず国清寺の南門のところまで出かけていきました。

すると、橋の先から一人の法師が馬に乗ってやって来るではありませんか。その顔はまさしく留学僧として唐に渡っていた円載その人でした。

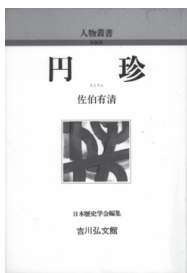
円珍さんは涙を流して再会を喜びましたが、円載は実に素晴らしい態度で円珍さんに接します。この時の気持を「おかしい、おかしい」と円珍さんは『行曆抄』に著しています。

ともあれ二人は宿坊に戻り、円珍さんがあれこれと声をかけ

るも、円載は生返事ばかりです。円載は、「長く唐の国にいたために、日本語をすっかり忘れてしまった」と言い放つと、黙り込んでしまいました。

翌十五日の昼食後、円珍さんは円載を、天台大師を祀る大師堂の前へと誘い出し、円載を伝燈大法師位に叙する勅牒を手渡しました。これは、円珍さんが右大臣藤原良房に願い出て、許可されたものです。

勅牒を手にした円載は、それを拝受し、喜びで体を奮わせ、天台大師像に向かって礼謝し、円珍にも感謝の意を表しました。これ以後、円載の態度は急変し、忘れてしまった日本語を喋り出したそうです。この豹変ぶりに円珍さんはいささか驚きましたが、円載の協力は、その後の旅の助けとなるのでした。



『人物叢書 円珍』
佐伯有清 吉川弘文館

石土入峰修行

今回、巻頭の特集は、「役行者えんのぎやう者じや小角おづぬ」と題して、その軌跡や伝説でんせつさらには修験道しゆげんどうについて、お話ししようと思っていました。

それが、役行者の出自についての推理だけで、ページを費やしてしまい、写真さえ一枚も掲載できませんでした。

それ程、役行者とは謎に包まれた人物であり、その魅力は語り尽きることがありません。今後、不定期になると思いますが、

役行者について、様々な方面から特集したいと思っております。

そして、記事で触れましたが、仮に役行者が土佐国とさのくにに流されたいたのであれば、四国にも役行者の伝説が残っているはず。それが石土山いしつちさんです。

現在では石鎚山として知られるこの山は、日本七霊山にほんななれいざんの一つに数えられ、七月一日〜十日の山開きでは毎年多くの信仰者の方々が参拝に訪れています。

金倉寺こんぞうじでは毎年七月七日に石土山への入峰修行にゆうがしゆぎやうを行います。初めての方の参加もお待ちしております。お気軽にお問い合わせ下さい。

◎石土入峰修行

日時 七月七日(木)

七時金倉寺集合

定員 三十名まで

費用 一〇、〇〇〇円

お問い合わせは金倉寺本堂または
電話〇八七七一六二一〇八四五

村上まで

訶利帝母例祭について

本年も恒例の訶利帝母例祭かりていもれいさいを五月七日(土)、八日(日)に開催いたします。

今回の訶利帝母例祭は、三月十一日に三陸沖を震源とした東北地方太平洋沖地震とそれに伴う東日本大震災の被災地の、一日でも早い復興のために、境内各所で義援金の受付をしております。訶利帝母例祭にお越しの際には、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

■編集後記

この度の東日本大震災における多くの被災者の皆さまには、哀悼の意を表すると共に、被災地の一日でも早い復興を、香川の地から日々お祈り申し上げております。

金倉寺におきましても、すでに教師の皆さまからは多くの義援金を協力いただき、ありがとうございます。

現在、義援金募金箱の設置(四国霊場会を通して、日本赤十字社への寄付予定)、並びに、訶利帝母例祭において、義援金の受付(善通寺市へ委託)を行う予定です。その他ご協力できることがございましたら、精一杯対応させていただきます。ただく所存でございます。

平成二十三年四月十一日発行

編集・発行 金倉寺

発行人 村上法照

お問い合わせは

〒七六五-〇〇三一

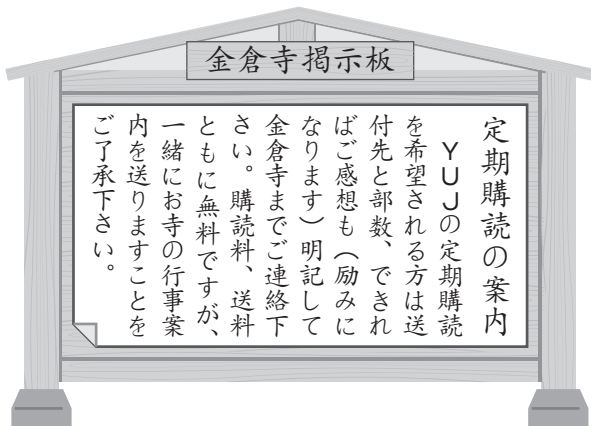
香川県善通寺市金蔵寺町一六〇

TEL〇八七七一六二一〇八四五

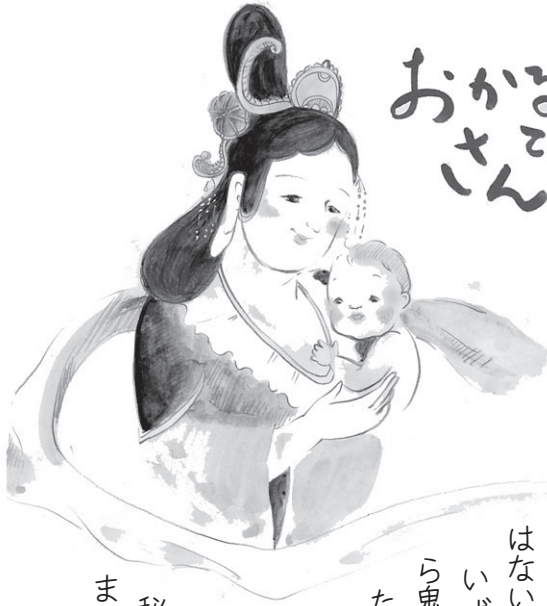
yuji@kagawa-konzouji.or.jp



瓶ヶ森山頂



おかるさん



柘榴は、中にびっしりと。種が詰まっていることから、子宝、多産の果物といわれています。そして、柘榴を持っている神様といえば、鬼子母神。お釈迦様より、子供を欲しがっている人には子を授けよ、と約束されました。

そんな柘榴には、植物性の天然エストロゲンが含まれています。エストロゲンとは、女性ホルモンのひとつで、女性の健康維持にとっても大事な役割を持っている成分です。赤ちゃんを望む方や若返りに効果が期待できるとか。ただし、その効能があるのは、摂取しにくい種の部分であること、摂りすぎはよくないこと、薬ではないのでみんなに効果があるという訳ではないことをお忘れなく。

いづれにしても、昔から鬼子母神の象徴とされた柘榴に、女性にとって大切な成分が含まれているという話は偶然というだけでは済まされない、神秘的な一致だと思いませんか。



日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	六月
5	6	7	8	9	10	11	水無月
戌の日	13	14	15	亥	17	18	亥
19	20	21	22	23	戌	25	戌の日
26	27	不動尊護摩供	29	30			

日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	七月
3	4	5	戌	7	8	9	文月
10	11	12	13	14	15	亥	亥
17	戌	19	20	21	22	23	亥
24/31	25	26	27	不動尊護摩供	29	戌	戌の日

日	月	火	水	木	金	土	
					戌	2	四月
3	4	5	6	7	8	9	卯月
10	11	12	戌	14	15	亥	亥
17	18	19	20	21	22	23	
24	戌	26	27	不動尊護摩供	29	30	

日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	戌	五月
8	9	10	11	12	13	14	卯月
15	亥	17	18	戌	20	21	卯月
22	23	24	25	26	27	不動尊護摩供	
29	30	戌					

訶利帝母縁日 毎月16日午前10時から午後2時まで訶利帝堂内に参拝できます

不動尊護摩供 毎月28日午前11時から本堂にて護摩祈願を行います

着帯戌の日 戌の日の午前11時と午後2時より安産祈願を行います(行事などによる変更あり)